

がんセンターたより

学会開催報告

日本がん口腔支持療法学会 第6回学術大会

大会長 光永 幸代 (歯科口腔外科)

日本がん口腔支持療法学会第6回学術大会を2020年12月5日(土)・6日(日)オンラインライブならびに12月5日～2021年1月17日までのオンデマンドプログラム公開にて開催致しました。ご協力いただいた皆様にはこの場を借りて感謝申し上げます。

特定非営利活動法人 日本がん口腔支持療法学会は発足から歴史の浅い学会ですが、年に1回の学術大会はがん口腔支持療法の研究発表の場として、あるいは医療従事者の交流の場として、ここ2～3年は200名前後の参加規模で開催されておりました。今回も当初は横浜市内での集合型開催を計画していた中で新型コロナウイルス感染症の流行拡大を鑑み、オンライン形式での開催に変更となりましたが、157名の皆様にご参加いただき、無事終了することができました。

本学術大会ではメインテーマを「みんなでつなぐ、サポートの輪」としました。特別講演では大田信行先生 (Preferred Networks America, Inc. CEO) よりお住まいのカリフォルニアから「深層学習の隆興と医療における今後の展望」としてAI医療の研究の基本から最先端のトピックスについてご講演いただきました。大田信行先生は、日本のがん口腔支持療法の開拓者である 故 大田洋二郎先生の御兄弟でもあるため、在りし日の大田洋二郎先生のお話にも話題が及びました。緊急シンポジウム「Covid-19 流行下でもがん口腔支持療法を継続するために」では当院呼吸器内科 村上修司先生にもご登壇頂き、がん治療医の視点、感染制御の視点でご講演いただきました。

運営の立場としては、各地の仲間と一同に会する機会を持てなかったのは残念でしたが、一方で国内外どこにいてもすべての講演、発表を見ることができるといふWEB開催ならではの利点を活かすこともできたと感じております。これを機に、自分自身もこの領域の研究をもう一歩、二歩と進めて行きたいと目標を新たにすることができました。

The 6th Annual Meeting of Japanese Association of Oral Supportive Care in Cancer (JAOSCC) 2020

日本がん口腔支持療法学会 第6回学術大会

メインテーマ
みんなでつなぐ、サポートの輪

プログラム・抄録集

会期:
オンラインLIVE 2020.12.5土・12.6日

オンデマンド公開 2020.12.5土 ▶ 2021.1.17日

大会長 光永 幸代 (神奈川県立がんセンター 歯科口腔外科)
学術大会ホームページ: http://jaoscc.org/2020_6th_annualmeeting/index.html

主催: 特定非営利活動法人 日本がん口腔支持療法学会

JAOSCC



ISMS 認証 を取得しました

情報セキュリティマネジメントシステム

臨床研究所 がん予防・情報学部 部長 成松宏人

情報セキュリティは高度に IT 化された現代では必須の基盤です。この度、臨床研究所では ISMS の国際的な規格である JIS Q 27001 (ISO/IEC 27001) を取得しました。今回認証を取得した適応業務は、がん予防・情報学部で行っている、がん登録、コホート研究、がん検診精度管理事業の各業務になります。

「情報セキュリティ」を守りながら、業務、特に研究業務を行っていくためにはバランスが重要です。たとえば、「大事な情報」を金庫に置いておけば、情報セキュリティは保たれますが、仕事ができません。ISMS では3つの要素、機密性 (情報を利用してはいけない人が、利用できない状態)、完全性 (情報が欠損したり破壊されたりしない状態)、可用性 (情報を利用しても良い人が利用しやすい状態) を ISO の規格の要求事項を守りながら、自分たちで考えながら維持運用していくプロセスが重要視されています。認証取得はスタートでしかありません。日々各業務担当者が、頭をひね

りながら、いかにこれらの要素のバランスをとってスムーズに日常業務を進めていくか、ゴールに向けて日々試行錯誤しています。



ISMS 運営委員会

各業務担当者が毎月集まり、よりよいセキュリティシステムの構築のために話し合いをしています。
(奥に写っているのが ISMS 認証登録証です。)

総長表彰

12月16日(水)、総長表彰の選考発表会を行いました。

医療サービス向上や病院経営の改善などに関する取組功績について、9チームから発表がありました。

総長賞は、「MOSAIQ チーム」の「Digital Data Management による業務効率の向上について」となりました。

病院長賞は、「手術室のあり方委員会」、看護局長賞は、「転倒転落対策チーム TMT-20」及び「地域連携室」がそれぞれ受賞しました。これらの取組を今後も医療サービスの向上や業務効率改善に繋げてまいります。(総務企画課)



総長賞 「MOSAIQ チーム」

診 療 科 紹 介

消化器内科（消化管）

消化器内科（消化管） 部長 町田 望

我々消化管内科グループは、食道・胃・小腸・大腸などの消化管を対象に、内視鏡による診断・治療と、薬物療法や、薬物療法と放射線治療の併用療法などを担当しています。内視鏡で切除できる患者さん、外科で切除となる患者さん、残念ながら癌が切除できない患者さん、皆様当科で診療させていただいています。内視鏡で切除できない場合は外科医と密に連絡をとり、手術までの準備をお手伝いしています。また切除できない患者さんも、現在では免疫チェックポイント阻害薬や分子標的薬といった薬物療法により、生活の質を落とさずに治療を受けています。市中の病院とは異なり、全国的なネットワークを通して臨床試験や治験といった新たな治療戦略・治療薬の導入も患者さんの協力のもとに実施しています。がん診療経験豊富なスタッフの指導の下、消化器内視鏡専門医とがん薬物療法専門医が、がんを治すこと、がんと上手に付き合っていくことをお手伝いいたします。



婦人科

婦人科 部長 加藤久盛

わが婦人科は現在7名のスタッフで診療しています。全員、産婦人科専門医であり、がん治療認定医5名、婦人科腫瘍専門医3名、内視鏡技術認定医3名、細胞診専門医3名、臨床遺伝専門医1名を擁しています。当科で力を入れているのは腹腔鏡手術並びにロボット手術です。2020年は両手術併せて30例行いました。開腹手術に比べ出血量は少なく、回復が早いため入院期間も短く済みます。子宮頸癌に対しても施設認定をめざし腹腔鏡下で広汎子宮全摘を開始します。また根治手術が困難な子宮頸部腺癌に対しては既存の放射線治療以外に重粒子線治療を行うことができます。従来の治療法より治療成績が期待されています。さらに臨床試験も数多く手がけています。もちろん精度も保ちながら行っており2020年12月にはJCOG（日本臨床腫瘍グループ）の監査総合評価で優（excellent）をいただいております。患者さんの立場になって、一緒に悩みを共有しながら丁寧に診療させていただきます。



認定看護管理者

副看護局長 茂木 光代



徽章



看護局のキャラクター
「かなちゃん」

認定看護管理者は、認定看護管理者教育を修めるか、大学院で看護管理に関する単位を取得して修士課程を修了した後に、認定審査で認定されます。「病院や施設などの管理者として必要な知識を持ち、患者・家族や地域住民に対して質の高いサービスを提供できるよう組織を改革し、発展させることができる能力を有する看護師」として、日本看護協会に認定される資格です。

2020年12月現在で、全国で4,551名（県内248名）が認定を受けており、当院には機構内では最も多い4名の認定看護管理者がいます。

私は、外来看護科長として勤務していた時に管理能力の不足を感じ、横浜市立大学大学院医学研究科の看護管理学分野に進学しました。資格を取得したとはいえ、あくまでスタートに過ぎず、わからないことや対処できないことに苦戦する毎日です。

「やりがいがある・働きやすい・職種を超えて協力し合える」職場づくりに向けて、努力していきたいと思えます。

新任医師の紹介

職員の異動がありましたので、ご紹介します。よろしくお願ひします。



呼吸器外科

医師 重福 俊佑

感染管理認定看護師

手術室 中野 了爾

当病院では現在、世界中に大きな影響を与えている COVID-19 をはじめ、様々な感染症の拡大を防ぐために感染対策を行っています。その中で院内の感染対策の要になる役割を担うのが感染管理認定看護師です。

私は2020年12月に公益社団法人日本看護協会より感染管理認定看護師の認定を受けました。現在は手術室の一員として勤務しながら、定期的に感染制御室の活動をしています。

感染対策は医療の現場では基本となる知識・技術です。しかし、ウイルスや細菌など目に見えない敵を相手にしなければならないという難しさがあります。だからこそ、日常的に感染対策を実践できるようになることが重要であり、感染対策に関する情報の発信や相談対応に力を入れていきたいと考えます。また、多くの人を巻き込んで感染対策を行うことで、それぞれの職員が感染対策の重要性が認識できるようにしていきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願ひ致します。



編集後記

当院も今年1月に新型コロナウイルスによる院内クラスターを経験しました。昨年2月からのコロナ対策チームのミーティングは70回を超え、日常的な感染対策、情報の収集と発信、必要物品の管理等を行ってきたことが、短期間での終息に繋がったと考えています。まだまだ、先の見えない状況が続きますが、がん診療を継続しながら患者さんと職員を感染から守ることが当院の使命と心得ています。病床運用においても状況の変化に合わせた柔軟な対応が求められています。引き続き、皆様のご理解とご支援をお願ひ申し上げます。（病院長 金森 平和）